

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02713

研究課題名(和文) 専門教育と連動した中国語初級教材の開発

研究課題名(英文) Development of Chinese beginner teaching materials linked with special education

研究代表者

山田 真一 (YAMADA, Shinichi)

富山大学・芸術文化学部・教授

研究者番号：20210453

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：専門科目と連動した中国語初級教材を開発するために、学習者に対するアンケート結果、インタビュー結果、専門科目の授業談話の分析結果に基づき、教材開発方法について考察した。その結果、学習者が専門分野と関連する知りたい語彙、身につけたい能力、専門分野で興味・関心のある事・物・人について分析する。学習者の専門分野に関する教室談話のデータを収集し、頻出語彙、単語間の共起ネットワークについて分析する。学習者の内省による専門性への気づきを促す、という手順を段階的に行うことにより、学習者主体の専門分野と連動した中国語初級教材開発が可能になることを示した。

研究成果の概要(英文)：This research aims at developing Chinese beginner teaching materials that linked with specific purposes of learners. As a research method, we conducted questionnaires and interviews with Chinese learners of the Faculty of Arts and Design University of Toyama. The results of analysis and consideration are as follows: (1) Analyze the vocabulary that the learner wishes to know related to the special field, the ability to wear, things that interests in the specialized field. (2) Collect data on classroom discourses on special subject areas of learners and analyze frequent vocabulary and co-occurrence networks between words. (3) Prompting awareness of expertise by learner's introspection. Through such a process, it becomes possible to prepare Chinese beginner teaching materials according to the learner's expertise.

研究分野：外国語教育

キーワード：外国語教育 特定中国語 初級段階 芸術系 専門教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 多様化する国際化社会における言語コミュニケーション能力として、英語以外の外国語の運用能力を身につけた人材を育成することの重要性が指摘されて久しい。英語教育における教材開発に関する研究はこれまで相当蓄積されているが、英語以外の外国語教育における教材開発に関する研究は十分には行われていない。多様な言語・文化を持つ国際社会で活躍できる人材を育成するためには、英語以外の外国語教育における教材開発に関する研究を推し進めるとともに、日本の大学教育における外国語教育の位置づけをより高めて行く必要がある。

(2) 日本の高等教育機関において英語以外の初修外国語は、カリキュラム上、選択科目として位置づけられることがほとんどで、学習者の学習動機も高くない。こうした状況を改善するためには、学習者の興味・関心・ニーズを考慮した初修外国語教材を開発する必要がある。言語教育において、学習者を主体とする教育が提唱されて久しいが、初修外国語教育において学習者主体の教材はほとんど開発されていない。今日の多様化・多元化する国際社会で活躍する人材を育成するためには、初修外国語教育における学習者主体の教材開発に関する研究が不可欠である。

(3) 英語教育においては ESP (English for Specific Purposes: 特定の目的のための英語) に関する研究及び教育実践が進んでいるが、初修外国語ではほとんど行われていない。こうした状況を改善するために、将来的な CSP (Chinese for Specific Purposes: 特定の目的のための中国語) カリキュラム実現のための準備的な研究を行う。

2. 研究の目的

(1) 学習者の初修外国語に対する学習動機を高め、限られた時間内で効率のよい学習を行うために、学習者の専門科目と連動した中国語初級教材の開発を支援するための実践的研究を行う。なお、本研究における学習者は、芸術系の学生とする。

(2) 学習者主体の教材開発を行うための基礎資料として、学習者から見た学習したい語彙、テーマ、関心のあるトピックについて明らかにする。

(3) 芸術系授業で使用される語彙の特徴について明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 中国語学習者に対し、専門分野と関連する学習したい語、専門分野で興味・関心のある事・人、専門分野以外で関心のあ

るテーマ、中国語学習を通して身につけたい能力、についてアンケート調査を行い、その結果を分析・考察する。

(2) 教材開発のために必要な言語データを、中国の高等教育機関における芸術系授業(「美学」、「国画」、「デジタル絵画」、「広告デザイン」)を録音し音声データを採取、その後、音声データを文字化し、KHCorder(樋口耕一氏が開発した、計量テキスト分析フリーソフト)を使い、高頻度出現単語の抽出、共起ネットワーク分析(単語間の共起関係の強さを可視化)を行った。

(3) 学習者の学習意欲に関する質的分析を行うために、中国語を3年間履修した学習者に対してインタビューを行い、SCAT (Steps for Coding and Theorization: 大谷尚氏が開発した、質的分析手法)を使い考察した。

4. 研究成果

(1) 学習者に対するニーズ調査分析と考察

芸術系学部(5コース:造形芸術・デザイン工芸・デザイン情報・造形建築科学・芸術文化キュレーション)1年生(57名)に対して 専門分野と関連して知りたい語彙、中国語学習を通して身につけたい能力 専門分野で関心のある事・物・人に関するアンケート調査・分析結果は以下の通りである。

専門分野に関する知りたい語彙(上位語)
* 文書数: 5コースの学生の内いくつかのコースの学生が知りたい語として挙げているかを示したものの。

抽出語	文書数
形	5
色	4
アニメーション	3
パソコン	3
デザイン	3
映画	3
美術館	3
文化	3
立体	3

上位語のうち、「形」、「アニメーション」、「デザイン」、「立体」といった単語は初級段階の学習語彙には含まれない。芸術系学生に対する学習語彙としては、「形」、「色」については、それに対応する中国語だけでなく、その下位分類の語彙について導入することも、学習者のニーズに合ったものと考えられる。また「形」に関連する語彙として「線」を表す語彙を、学習語彙として提示することが、芸術系の学習者を対象とする中国語初級教育には必要である。語彙の導入に際してはコロケーションで提示し、たとえば「やわらかい線」とか「固い線」

というように、絵画系の授業でしばしば観察されるフレーズの形で導入することが、実用的な語彙指導と言える。

中国語学習を通して身につけたい能力（件数上位のもの）

身につけたい能力	件数
日常会話（簡単な世間話）	14
プレゼン・作品説明・議論	8
専門用語を伝える能力	4
自分の職業・専門紹介	3
中国人と意思疎通できる能力	3
売買の交渉	3

身につけたい能力として、「日常会話（簡単な世間話）」以外では、「プレゼン・作品説明・議論する」能力と回答した学習者が多いことが、特徴として挙げられる。先行研究（王松等、2016）によると、「学習動機づけの強弱で学系を並べるなら、芸術系＞人文科学系、外国語系、教育学系＞医療看護系、社会科学系＞自然科学系の順となる。」、「芸術系が「内発的動機づけ」、「同一視的調整」、「取り入れ的調整」の3因子ともに高い」とされている。本研究で得られた結果は、芸術系学生の中国語学習に対する動機づけが高い理由の一因を示している。

専門分野で関心のある事・物・人（件数上位のもの）

専門分野で関心のある事・物・人	件数
金属工芸	7
漆工芸	6
アニメ	5
プロダクトデザイン	3
映像	3
日本画	3

調査対象とした学生が所属する大学は工芸都市として知られる富山県高岡市にあり、そのことが、「金属工芸」、「漆工芸」が専門分野で関心のある事の上にランクされていることが特徴的である。

（2）芸術系授業談話に現れる語彙

中国の芸術系大学・学部の授業における教室談話を録音し、文字化したデータを元に高頻度出現語彙について調査を行った結果以下の点が明らかになった。

芸術系教室談話の語彙として特徴的な名詞として、「概念」（概念）「表达」（表現する）「表现」（表現）「过程」（プロセス）などがある。

副詞の「其实」（実は）や「就是说」（つまり）は初級段階の学習語彙とされていないが、芸術系授業の教室談話では出現頻度が高い。こうした談話構築に関わる副詞は、「対話能力」の育成という観点からは、「プレゼンテーション」能力を身につけたい芸術系学生を対象とする中国語教育において、初級段階において導入することが必要となる。

（3）芸術系授業談話における単語間の共起ネットワーク

KHOrderにより、授業談話に現れる単語間の共起関係を調べた結果の一例を図1に示す。「设计」（デザイン）と共起ネットワークを形成する語には「广告」（広告）「表达」（表す）「方式」（方法）「做」（行う）「去」（積極的に～をする）が、「创意」（創意工夫する）とネットワークを形成する語には「包括」（含む）「需要」（～する必要がある）「当然」（もちろん）「概念」（概念）があることが分かった。

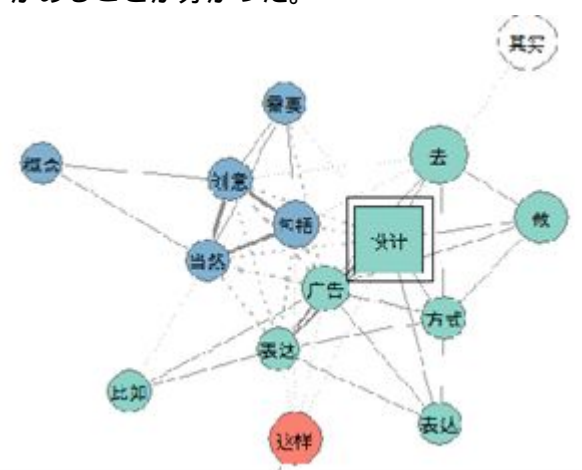


図1

（4）美術教科書に現れる高頻度出現語彙

中国の九年制義務教育で使用されている美術の教科書に出現する高頻出語彙調査の結果は以下になる。（品詞毎に上位10語を示す。形述＝形容詞の述語用法、形体＝形容詞の連体用法）

名詞	形述	形体	副詞	動詞
作品	丰富	小	最	学习
设计	不同	现代	也	制作
艺术	漂亮	不同	更	可以
方法	独特	新	不	进行
美术	有趣	大	都	表现
色彩	美丽	基本	又	设计
生活	大	传统	并	能
造型	强烈	古典	就	要
画面	好	审美	怎样	要求
形象	多彩	主要	一	出

この結果から以下のことが分かる。名詞のうち「设计」（デザイン）「形象」（イメージ）以外は日本語と同義である。形容詞の「大」は述語用法、連体用法ともに高頻出語である。動詞においても「设计」（デザインする）が高頻出語となっている。

（5）学習者の学習意欲に関する質的分析結果

中国語既修者（学習歴2年半）にインタビューを行い、学習意欲に関してSCAT分析を行った。その結果をストリーラインで示すと以下ようになる。

「授業中に流暢に音読ができたときに、満足感が生まれ、モチベーションがあがる」、「日常的に使用するコミュニケーションツールである Twitter で回って来る中国語のコメントが読めた時、自分と世界が中国語を通してつながっているという感覚が生まれ、意欲が高まる」。このことから、授業における音読重視が学習者の学習意欲を高めることにつながることを、学習意欲の高い学習者の自律的学習能力の高さがうかがえる。

(6) 専門科目と連動した教材作成の手順以上の分析・考察を踏まえた、専門科目と連動した教材作成の手は図2のように示される。

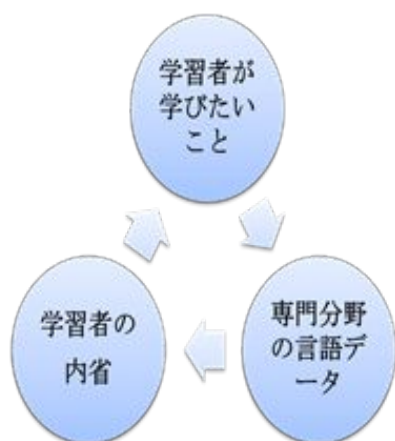


図2

学習者が学びたいことを知る：学習者が知りたい語彙、身につけたいと思っている能力、関心・興味のある分野・テーマについてアンケート等により調査する。専門分野の言語データを収集する：教室談話の観察、インターネット上に現れる学習者が興味・関心のある分野の言語データを収集し、計量テキスト分析ソフトにより高頻出語彙、語と語の共起ネットワーク、KWIC 検索分析する。学習者の内省：学習者にインタビューを行い学習者自身による「専門性」に対する理解を探る。

から の作業を段階的に行うことで専門分野と連動した中国語初級教材を作成することが可能になる。なお、学習意欲の高い学習者に対しては、専門分野における自分の興味・関心に基づき、対話文を自ら作成させるというように、学習者自身による教材の一部作成というタスクを与えることは、学習プロセスをモニターするという意味からも有効である。

<引用文献>

王松 古川裕 砂岡和子、日本の大学生の中国語学習動機づけ 全国6言語アンケート調査に基づく量的分析、中国語教育、14号、2016、110 - 111

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

山田眞一、中国語の芸術系科目における教室談話についての一考察 語彙を中心に、富山大学芸術文化学部紀要、査読有、12巻、2018、50 - 56

〔学会発表〕(計 1 件)

山田眞一、学習者から見た、専門科目と連動した中国語教材開発の試み 芸術系学生を対象に、日本中国語学会、北陸支部例会、2017年3月18日

〔その他〕

ホームページ等
<http://longmen.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田眞一 (YAMADA, Shinichi)

富山大学・芸術文化学部・教授

研究者番号：20210453